

開催中の企画展

台東区の橋

令和2年3月20日～6月14日

「台東区の橋は？」と聞かれて頭に思い浮かぶのはどの橋でしょうか。

台東区には、隅田川にかかる橋、神田川にかかる橋、線路をまたぐ陸橋、地名に残る橋など、多くの橋があります。橋は対岸への移動手段であり、街並みをつくってきたものの一つです。

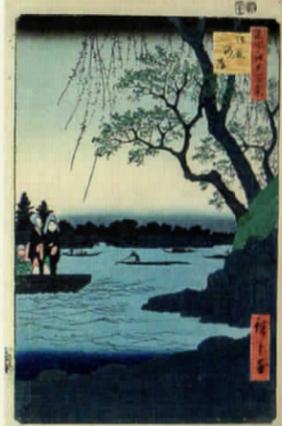
本企画展では、中央図書館で所蔵している浮世絵や地図、絵はがき、和本の貴重資料を用いて台東区の橋の歴史を紹介します。



▲ Azuma bashi. 吾妻橋



▲ (東京十六橋) 蔵前橋



▲名所江戸百景 御殿河岸



▲名所江戸百景 上野山した(ちりめん絵)



▲東京名所 上野公園之景



▲蓬萊園記

日記が語る台東区7 外国人が見た台東区

6月19日(金)～9月13日(日)

シーボルトをはじめとする幕末に台東区を訪れた旅人としての感想や、明治期に歓迎会や博覧会の行事に参加した記録などを紹介します。特に浅草花屋敷を訪れた、外国人ならではの描写に注目します。

- トーク・イベント：7月上旬開催
- ギャラリー・トーク：8月開催
- スライド・トーク：9月開催

上野公園 (仮)

9月18日(金)～12月13日(日)

日本最初の公園のひとつ、上野公園。かつて上野戦争の舞台となった上野公園が、博物館や動物園など日本有数の文化発信地となった歴史を紹介します。

- トーク・イベント、ギャラリー・トーク開催

台東区の名屋敷と庭園 (仮)

12月18日(金)～令和3年3月14日(日)

鳥越にあった平戸藩上屋敷の名園「蓬萊園」など、かつて区内にあった大名屋敷や庭園を紹介します。

- トーク・イベント、ギャラリー・トーク、スライド・トーク開催

絵はがきでみる台東区 (仮)

令和3年3月19日(金)～6月13日(日)

郷土・資料調査室報

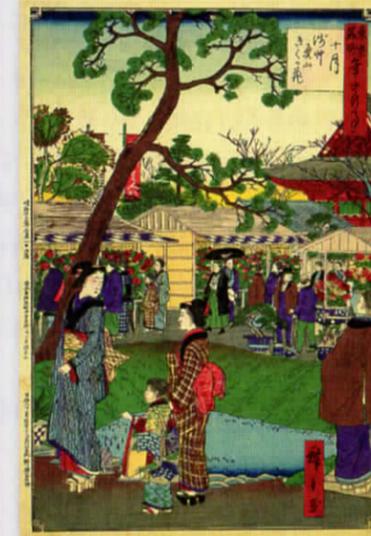
2020 令和2年3月 第10号

郷土・資料調査室の貴重資料を紹介するコーナー

書庫を繙く



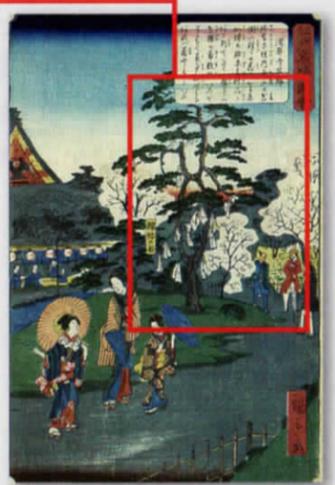
▲絵本江戸土産 七編 浅草奥山花屋敷



▲東京名所年中行事 十月 浅草奥山さくの花



▲緑結びの松と外国人



▲江戸名勝図会 浅草寺花邸



▲浅草奥山四季花園真景 其二

外国人が見た花屋敷

現在は遊園地として有名な浅草花やしきは、もともとは江戸時代末期に開園した花園でした。シーボルトは、文久元年(1861)8月の2度目の来日の際、「植木屋六三郎方江立寄」と、植木屋六三郎の営む花屋敷に立ち寄っています。また、明治11年(1878)6月9日には、イギリス人の女性旅行家、イザベラ・バードが、花屋敷の庭を次のようにほめたたえています。

寺院の左には庭園があり、そこには小型のつつじがまだ咲いています。この庭は一月には椿、三月初旬には梅、四月には桜、六月には聖なる蓮、そして一月にははつと、日本の花々の美しい光景を何千人もの来園者につぎつぎと見せてくれるのです。(中略)浅草の庭園で目を引いたのは、自然というより人工の美しさでした。日本庭園の「最高の技」の多くは自然をゆがめたり、形を変えたり、小さくしたり、大きくしたりすることにあります。(『イザベラ・バードの日本紀行』)

元治元年(1864)頃に描かれた「江戸名勝図会 浅草寺花邸」には「緑結びの松」という、幹が中央で結ばれた形の松があり、そのかたわらには外国人が武士に案内されて園内を見学しています。これは、まさにシーボルトが体験した姿

であり、イザベラ・バードが感嘆した「形を変えた」「人工の美しさ」を表しているといえましょう。

花屋敷に目的をもって訪れた人物もいました。著名なブランド・ハンター、ロバート・フォーチュンです。彼は、

ここは江戸の近くで、多種類の美しい菊で有名である。われわれが訪ねた時は花は満開であった。イギリスの花屋はきっと、ハンマースミス寺院や、ストック・ニューウイントンから、はるばる浅草寺の菊の花を見に来て、どんなに目を楽しませたいことだろう。私は形も色も特種で実にすばらしく、イギリスで現在知られた、どんな種類とも全く異った品種をいくつか手に入れた。(『江戸と北京』)

とあるように、菊の季節に訪れ、ヨーロッパで栽培、販売するために菊の園芸品種を入手しています。

以上のような、外国人の視点から、企画展「日記が語る台東区7外国人が見た台東区」を、6月19日(金)から開催します。ほかにも、『シュリーマン旅行記』『ベルツの日記』『クララの明治日記』などを紹介し、幕末・明治の台東区の様子にあわせた地誌・浮世絵などを展示する予定です。

台東区立中央図書館 郷土・資料調査室

〒111-8621
東京都台東区西浅草3-25-16
TEL. 03-5246-5911
<http://www.city.taito.lg.jp/index/library/index.html>

【開館時間】

月～土曜日 午前9時～午後8時
日曜・祝日 午前9時～午後5時

【アクセス】

- つくばエクスプレス「浅草」駅 A2出口から徒歩8分
- 地下鉄日比谷線「入谷」駅 徒歩8分
- 北めぐりん・南めぐりん
「生涯学習センター北」徒歩3分
「生涯学習センター南」徒歩3分
- 都バス「入谷二丁目」停留所 徒歩3分



郷土・資料調査室紹介

郷土資料を探しやすく

■吉原関連資料の配架場所の変更

台東区にかつて遊廓「吉原」があったことにちなみ、郷土・資料調査室では吉原の関連資料を収集しています。資料には吉原の文字を入れた背ラベルを貼付しています。

吉原の関連資料は郷土・資料調査室内でご覧いただきやすいよう、5番の棚に移動しました。詳しくは下図を参照してください。(利用者端末付近)



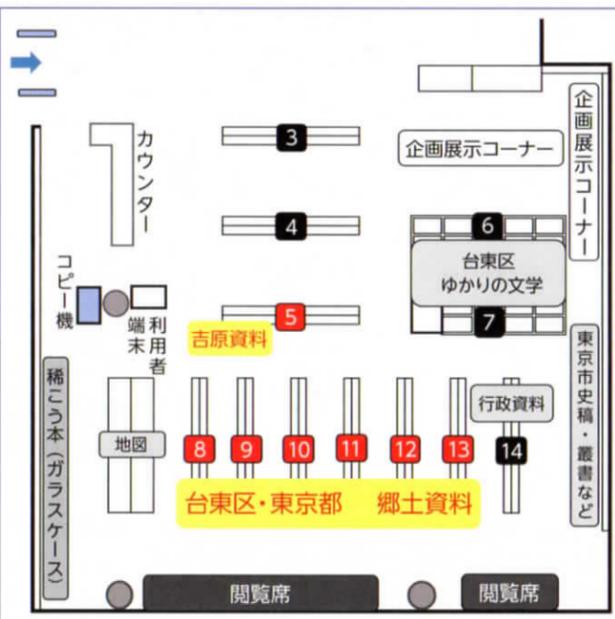
▲展望社



▲新葉館出版

■台東区・東京都の郷土資料の棚を統合

これまで、台東区と東京都で棚が分かれていた郷土資料を、全てまとめて並べることにしました。台東区について掲載されている本の背表紙には赤丸のシールを貼っております。資料をお探しの際にご確認ください。



▲郷土・資料調査室 略図

赤字の箇所が今回変更された棚となっております。

台東区を知るために

郷土・資料調査室では台東区史をはじめ、区に関する資料を揃えています。その中から台東区発行の代表的な資料をご紹介します。

■「下谷・浅草町名由来考」 棚9

資料番号 122636806

自分の住んでいる町、気になる名前の町の成り立ちや由来について調べるなら、この本がおすすめです。町名が変遷するなか、今は呼ばれなくなった昔の町名が町会や学校、お店などでその名を残しているところもあり、現在も地域に根付いていることがこの本からわかります。

■「古老がつづる下谷・浅草の明治・大正・昭和」 I～Ⅷ 棚8

資料番号 113603419 他

明治・大正・昭和期の下谷・浅草に生まれ育ち、生活を重ねた方々の体験談をまとめた資料集です。下町の風俗・習慣を始め、日々の暮らしから、歴史的なことまで。その時代を生きた方の口から語られた体験談は、遠方から研究者がわざわざ調査に足を運ぶほど、貴重なものです。

A5版 モノクロ 第8巻に総索引 製本版も有

■「道路・橋梁考」 棚9

資料番号 122478639

今はなき藍染川や山谷堀について調べたいと思ったらこの本。区内の川、堀、池とそこに架かる橋、道の呼び方とその謂れについて、過去から現在までの変遷も詳細に載っています。地図上の位置は付属の地図でお確かめ下さい。ただし、昭和38年(1963)発行ですので、それ以降の地名は載っていません。

パスファインダーをご存じですか？

パスファインダーとは、あるテーマや事柄について調べたい時、役立つ資料やツールを紹介するために図書館が作成した情報探索ガイドです。郷土・資料調査室の入口に設置していますので、資料をお探しの際にご利用ください。

→こちらのQRコードから図書館のパスファインダーのホームページにアクセスすることができます。併せてご利用ください。



令和元年度の企画展

郷土・資料調査室ってどんなところ？Ⅲ ~のりもの編~

3月23日(土)～6月16日(日)

台東区は日本全国で早期に鉄道が敷かれた地域であり、国内初の地下鉄が上野～浅草間で運行した地域でもあります。また、昭和の時代では、路面電車が区内のあらゆる場所を走行していたなど乗り物と深い関わりを持つ地域です。

この企画展では人力車・鉄道馬車・路面電車など、かつて台東区を走っていた乗り物に着目し、館蔵の浮世絵や絵はがきや和本の貴重な資料を用いて、乗り物を通じた台東区の歴史を紹介しました。



▲今 古今東京名所 上野鉄道蒸気車

◆図書館職員によるギャラリー・トーク 4月21日(日)、6月9日(日)

●トーク・イベント 「台東区ののりもの」5月25日(土) 「上野駅ものがたり」黒川徳男(國學院大学兼任講師)

「ブックトーク はじまりは上野駅から」児玉ひろ美(当館司書)

日記が語る台東区6 江戸の旅日記を読む

6月21日(金)～9月16日(月・祝)

「日記が語る台東区」シリーズその6として江戸時代の旅日記をとりあげました。江戸時代、台東区には全国から多くの人びとが上野・浅草という観光地を訪れました。また、江戸に住む人びとが、花や功德を求めて寺社をめぐる小旅行も行われました。この企画展では、江戸時代の旅にスポットをあて、旅人が台東区地域をどのように旅したのかを旅日記や地誌を用いて紹介しました。



▲江戸八景 吉原の夜雨

●トーク・イベント 「旅日記を読む」7月15日(月・祝) 「旅日記の楽しみ」加藤芳典(文京ふるさと歴史館専門員)

「江戸時代の観光」平野恵(当館専門員)

◆専門員によるギャラリー・トーク 8月18日(日) / 専門員によるスライド・トーク 9月15日(日)

浅草仲見世

9月20日(金)～12月15日(日)

国内最古の商店街の一つであり、浅草寺の門前市として繁栄し、台東区に賑わいをもたらした浅草の仲見世をテーマとしました。震災や空襲で壊滅的な被害を受けてもその都度復興し、現在では国内外から多くの人々が訪れる屈指の観光地となっています。

300年以上前からの歴史を持つ仲見世の繁栄の道りを辿り、仲見世の歴史を紹介すると共に、その魅力を再発見することを目的としました。

●トーク・イベント 第1回 10月6日(日) 「近世～近代の浅草の転換期」塩入亮乗(浅草寺法善院住職)

第2回 12月8日(日) 「日本最古の商店街 仲見世」富士滋美(仲見世商店街振興組合理事長)

◆図書館職員によるギャラリー・トーク 11月10日(日)



▲東京真画名所図解 浅草仲見世

吉原細見の世界Ⅱ

12月20日(金)～令和2年3月15日(日)

江戸時代後期に春と秋の年2回出版された、吉原のガイドブック「吉原細見」には、変化めまぐるしい妓楼の場所、遊女や茶屋の名が記されています。中央図書館では「吉原細見」を多く所蔵しており、平成26年(2014)に企画展「吉原細見の世界」を開催しました。

第2弾目として今回の企画展では、細見と浮世絵の関連性に注目し、前・中・後期と1か月ごとに浮世絵と細見の一部を展示替えしました。

●トーク・イベント 第1回「吉原細見の周辺」1月26日(日) 「吉原細見と浮世絵」平野恵(当館専門員)

「吉原の本屋 蔦屋重三郎」鈴木俊幸(中央大学文学部教授)

第2回「資料館・図書館と吉原」2月16日(日)

「江戸風俗人形」と下町風俗資料館 本田弘子(台東区立下町風俗資料館研究員)

「郷土・資料調査室の和本と浮世絵」平野恵(当館専門員)

「ブックトーク『吉原を知る』開架図書にて」児玉ひろ美(当館司書)

◆専門員によるギャラリー・トーク 3月8日(日)